

スタートは元気な「あいさつ」から

秋田県自治研修所長 金田 早苗

秋田の子どもたちのあいさつのすばらしさはあちこちでよく耳にします。小学生だけでなく、中学生や高校生も積極的にあいさつをしてくれるので、頼もしい限りです。きっと学校や家庭で「知っている人だけでなく誰にでもあいさつするんだよ」と教えられ、そういう大人をみているからだと思います。「さわやかほほえみあいさつ運動」のお手本です。

研修所では、「あいさつ運動」の一環として、研修の始まりと終わりに研修生の代表、副代表のリードであいさつをしています。研修の始まりに、きびきびと元気な声のあいさつがビシッとそろとうと、参加者の意識も高まり、いい研修がスタートするような予感がします。

研修の終わりも、また、あいさつです。「二日間にわたってたくさんのご指導をいただき、大変ありがとうございました」と一言加えてくれる代表もいて、研修所としてはうれしいシーンです。



新規採用職員研修では、「接遇・ビジネスマナー」の時間に、まず、あいさつの仕方から学びます。最初は、あまり元気がなくばらばらだったものが、練習を重ねていくと、全員の声が元気に響き合い、お辞儀をして頭を上げるタイミングまできれいにそろってきます。そうになると、どこで会っても気持ちのいいあいさつが交され、研修もスムーズに進みます。

「あいさつ」は漢字で書くと「挨拶」。「挨」は「心をひらく」、「拶」は「相手に近づいていく」という意味があり、コミュニケーションの第一歩です。「相手の目をみて」、「明るく」、「元気よく」、「自分から気持ちを込めて」、というのが大事なことです。

考え事をしていたり、気がかりなことがあると、下を向いたまま、誰ともあいさつを交わさずに仕事に向かってしまうことはありませんか。

さわやかで元気なあいさつを意識して1日をスタートすると仕事もはかどりますよ。

ちなみに、あいさつの際の「発声」と「お辞儀」はどのようにするのが正解か、皆さんご存じですか？正式には『語先後礼』だそうです。同時に行う場合も多いですが、しっかり目を見て「おはようございます」と言ってから頭を下げるのが正しい丁寧なあいさつの仕方です。

こうすると本当にビシッと決まります。

新しい年も明るい元気なあいさつを意識してスタートしましょう。

「マーケティング力向上」研修についてご紹介します。



「マーケティング力向上研修」 行政の現場でマーケティングを活用する手法を習得します！

◆行政にマーケティングは必要です。

“経営の神様”ピーター・ドラッカーは、非営利組織が成果を生むためにはマーケティングが不可欠であると説いています。

また、“近代マーケティングの父”フィリップ・コトラーも、公的組織でのマーケティングの必要性を強調しています。

このように多くの識者が、行政課題を解決するための効果的な手法として、マーケティングの有用性を指摘しています。

そこで本年度、マーケティング力を習得するための研修を新たに実施しました。

◆行政に必要なマーケティング力とは？

研修では、始めにマーケティングの理念を理解した後、マーケティングで用いられる次の基礎知識を、講義とグループ討議で学びました。

- ・ 3 C 分析（顧客・競合・自社）
- ・ 4 P（製品・価格・流通・プロモーション）
- ・ セグメンテーション
- ・ ターゲティング
- ・ ポジショニング

次に、観光集客のためのプロモーション、地域ブランディング、アウトソーシング、行政評価について、行政がマーケティング手法を実践した事例で説明を受けました。

最後に、総まとめとして「観光振興戦略立案に必要なマーケティングリサーチの設計」をテーマに演習を行いました。

2 日間でマーケティングの効果をより具体的に実感し、実務に活用できるマーケティング力を習得できたのではないのでしょうか。

◆講師は現場での実践者です！

講師は、ビズデザイン（株）代表取締役 木村 乃（きむら だい）さんです。

木村さんは、（株）野村総合研究所などでの勤務を経て、民間人の任期付登用制度で平成 15 年度に神奈川県三浦市の部長職に就任し、5 年間政策経営の指揮を執りました。在職中に手がけた「みうらシティセールス・プロモーション」は、地域資源を活用したマーケティング活動の実践例として高く評価され、平成 21 年度「優秀観光地づくり賞」の最高賞である「金賞・総務大臣賞」を受賞しています。

現在は、明治大学で地域活性化をテーマに学生を指導するかたわら、内閣府の地域活性化伝道師として地域振興を実践中です。

行政の立場や視点を踏まえ、自ら主導した実例的な具体例を交えた説明や助言は、分かりやすく実務に役に立つ内容で、受講者には大変好評でした。

◆マーケティングが地域を変える！

マーケティングには、地域の強みを活用しながら地域全体の価値を向上させる力があります。

限られた人材と財源の中で地域の課題を解決するため、マーケティング力の向上を目指しましょう！！



【担当：鈴木 一則】

リ ニ ュ ー ア ル 科 目

「ロジカルシンキング」研修についてご紹介します。



「ロジカルシンキング研修」

自分の考えを筋道立てて分かりやすく相手に理解してもらう技術を習得します！

◆ロジカルシンキングって何？

「論理的思考」「ロジカルシンキング」という言葉は皆さんもよく耳にしているかと思います。その言葉のとおり、「ものごとを論理的に考えて結論を出すこと」ですが、そのための様々なツールが開発されています。

この研修では、代表的なツールを分かりやすく紹介します。

◆あなたは自分の考えを、分かりやすく相手に伝えていますか？

皆さんは常日頃、自分の考えや出した結論が相手にきちんと伝わっているか意識しているでしょうか？

せっかくきちんと考えて、正しい結論を出していたとしても、その結論が相手にきちんと分かりやすく伝わらなくては、意味がありません。

論理的に考えた結果を、相手に分かりやすく伝えるためのポイントが学べる研修です。

◆演習主体で、より実践的な内容です！

研修は演習主体で進められますので、様々な演習問題に取り組むことで、モレ、ムラ、重複なく（MECE）考えをまとめるコツが、自然とつかめるでしょう。

ロジカルシンキングの代表的なツールをいくつか使って演習を進める中で、自分にあったやり方や、ケースごとの使いやすいツールなどもいろいろと探ることができます。

◆興味深い話題が満載

講師は、(株)BCL代表取締役 別所栄吾（べっしょ えいご）さんです。

別所さんは、民間企業や官公庁での豊富な講師経験をお持ちで、その経験を活かした話には大変興味をそそられます。中には、普段の私たちの業務ではなかなか知り得ない情報も多くあり、それらをそこかしこにちりばめながら研修は進みます。

まるで落語を聞いているような感じで、あっという間に6時間が過ぎていきますので、「長い研修は苦手だ。」という方も是非受講してみてください。

◆全てはここから！

「問題解決」や「企画立案」「意思決定」など、政策形成スキルを習得していく上でも、あるいはコミュニケーションスキルをマスターするにも、まずは「問題はどこにあるのか？」「相手は何を言いたいのか？」きちんと論点を見いだす力が必要です。「ロジカルシンキング」を受講して、論理的思考力を養いましょう。

全てはここから始まります！



【担当：畠中 和明】

「現業職員研修」をご紹介します。



「現業職員研修」～役職段階別研修～

公務員のルールを再確認し、本県の重要課題等について学んでもらう「現業職員研修」は、3年に1回のペースで皆さんに受講してもらっています。

◆「公務員倫理」

始めに、地方公務員法の「信用失墜行為」や「守秘義務違反」などについて、事例問題を通して学んだので、納得感が得られたのではないのでしょうか。

次に、日頃、運転業務に携わる皆さんには特に重要な「飲酒運転防止」についても、飲酒量とアルコール分解時間の目安を参考に、その危険性について再認識してもらいました。

研修生の皆さんは、公務員としての自覚を常に持つことの大事さを改めて感じ、気を引き締めていたようです。

◆「秋田県の重要課題」

今年度新しくスタートした「観光文化スポーツ部」の取組について、観光戦略課政策監から説明がありました。

今年10月から実施する「秋田デスティネーションキャンペーン」の概要や、「お客様目線」「観光と他分野の連携」の重要性など、秋田県のこれからの姿について、具体的に思い描くことができました。今後は楽しみです。

◆救急救命講習

男鹿地区消防署の職員から、応急手当の基礎知識について説明を受け、実際に心肺蘇生とAEDの使用手順を体験しました。

頭では分かっている、緊急時には慌ててしまうし、実行に移すとなるとかなりの勇気があるものですね。

今回、プロの指導を受けながら体験してみたことで、イザというときのための自信につ

ながったのではないのでしょうか？



真剣に説明を聞きながら、「お年寄りや子供は、どのぐらいの力で押せばいいの？」「119番に電話したとき、周囲に目印がない場所だったらどう説明すればいいの？」など具体的な質問も出ていました。



数年前から新しいやり方に変わってるそうです。1度だけではなく、忘れないように反復して受講することが大事ですね。

受講後、皆さんには修了証が渡されました。

講義・実技と盛りだくさんの内容でしたが、ぜひ、今後の業務に活かしてください。

【担当：佐藤 晃子】



ご参考までに！

月刊『ガバナンス』の連載記事「間違いだらけの部下指導」の中に、筆者が作った「酒席の10か条」というのが載っていました。

年度末を控え、送別会など酒席が多くなる職員の皆さんに、参考になり、教訓になると思い、ご紹介します。

◆酒席の10か条◆

- ①呑み、かつ大いに食すること。
- ②聞き上手に徹すること。
- ③自分を大きく語らぬこと。
- ④相手を大いに褒めること。
- ⑤相手と大いに笑うこと。
- ⑥約束ごとはしないこと。
- ⑦議論するより楽しい話題を。
- ⑧「あと1杯」が災いのもと。
- ⑨「あと1軒」が悔いのもと。
- ⑩おなごり惜しく別れよう。



月刊『ガバナンス』11月号

「間違いだらけの部下指導」から抜粋

(筆者：人事教育コンサルタント 本田有明)

※当該図書は貸出可能です

①～⑦は、場の雰囲気を和らげ、盛り上げることに効果大。

⑧～⑩を実践すれば、次の日はアルコールも抜けて体調良好。

飲酒運転の防止にも大いに役立ちます。

「あと1杯」が災いのもと、「あと1軒」が悔いのもと。酒席で思い出して、おなごり惜しく別れましょう…。

【担当：福岡 達生】

★編集後記★

新しい年がスタートしましたね。

1月～3月は研修がほとんどないため、所内は人の出入りも少なく寒々としています。

唯一のお楽しみ(?)は食堂のランチ！

冬期間は、「鍋焼きうどん」や「辛味噌ネギラーメン」など日替わり麺メニューがあり、玄関前の雪かきで冷えた職員の体を温めてくれます。

去年は、目の前でシェフが作ってくれる「オムライス」が女子人気ナンバー1でした！

研修にお越しの際は、ぜひ食堂をご利用くださいね。
お待ちしております～♪

